

令和7年度 第1回九州森林管理局保護林管理委員会議事概要

- 1 日時 令和7年10月16日(木) 13:00~17:00(現地検討会)
令和7年10月17日(金) 9:00~12:00(会議)
- 2 場所 紫尾山ブナ等遺伝資源希少個体群保護林、セントピア(薩摩川内市)
- 3 議事
 - (1) 現地検討会の振り返り
 - (2) 令和6年度第2回保護林管理委員会等における意見概要と対応について
 - (3) 令和7年度のスケジュールについて
 - (4) 重点的対策実施17保護林における取組について
 - (5) 令和6年度保護林モニタリング調査実施保護林に係る管理方針書について
 - (6) その他
- 4 議事の概要及び主な意見
 - (1) 令和6年度第2回保護林管理委員会等における意見概要と対応について
九州森林管理局の対応方針を説明。
 - (2) 令和7年度のスケジュールについて
令和7年度の保護林に係る取組みのスケジュールについて説明。
 - (3) 重点的対策実施17保護林における取組について
柵設置及び捕獲等の計画・実施状況等について説明。委員からの主な意見は下記の通り。
 - ・保護柵の保守点検の記録をどのように保管しているのか。
 - ・保護柵のメンテナンスの計画や実績を整理すべき。
 - ・取組みによる効果を検証すべき。
 - ・局による取組みの計画が何もない保護林が何か所もあるのはなぜか。
 - (4) 令和6年度保護林モニタリング調査実施保護林にかかる管理方針書について
管理方針書の改訂案について説明。委員からの主な意見は下記の通り。
 - ・保護対象樹種の更新状況を把握したいため実生についての情報も記載して欲しい。
 - ・スズタケの枯死の要因は一斉開花による枯死なのか。もし一斉開花による枯死であれば「タ

ケの開花による枯死」という文言や枯死の期間についての情報を記載すべき。

- ・北向山コナラ等遺伝資源希少個体群保護林について、「プロット内で確認されたのは保護対象のうちウラジログシのみ」という記述があるが、このようなプロットで、今後もモニタリングを継続していくのが適切なのか。場合によってはプロットを増やすといったことも検討すべきではないか。
- ・市房ゴイシツバメシジミ希少個体群保護林について、プロットがいずれも植生保護柵内にあるが、シカ対策のモニタリング用として保護柵外に植生調査プロットを新設すべきではないか。
- ・市房ゴイシツバメシジミ希少個体群保護林について、シシンランやゴイシツバメシジミ自体の情報（個体数やその経年変化）を記載して欲しい。

これらの意見を踏まえた修正案を第2回委員会で再度審議するとされた。

(5) その他

屋久島菌従属栄養植物等希少個体群保護林について、保護林面積の計上に誤りがあったことを説明。

5 現地検討会について

今回の保護林管理委員会開催に併せ、紫尾山ブナ等遺伝資源希少個体群保護林にて現地検討会を実施した。本保護林はシラキーブナ群集の日本における分布南限の一つであり、生育本数の少ないブナの南限域の生育環境として貴重である。地球温暖化の影響等を見ることを目的として2008年から2025年にかけて実施されたブナ分布調査では、高齢級のブナの半数は保護林内に存在するものの、壮齢級以下のブナの約7割は保護林外に位置していることが明らかとなった。また、遺伝解析によって紫尾山におけるブナは遺伝的に特異であり、他の集団と比較して遺伝的多様性が低いことが判明した。このことから、保護林区域をブナの分布域に即して拡張し、紫尾山ブナ林の特異的な遺伝的多様性を保全していくことが必要と考えられ、本検討会にて、拡張予定区域の確認を行った。また、紫尾山では、2008年頃からシカの食害による下層植生の衰退が見られるようになったことから植生保護柵を設置しており、柵設置による効果の確認も併せて行った。

これらについて、委員からの主な意見は下記の通り。

- ・拡張予定のエリア外にもブナが分布しているため、拡張エリアは科学的根拠に基づきつつ可能な限り最大化し、1本1本のブナを保全していくことが重要。また、エリアの設定に際しては、小班にとらわれない柔軟な対応が必要。

- ・ 今後ブナ林を保全していく上で、シカの食害によってブナの実生がほとんど見られないことが一番の問題。短期的な対策としては、植生保護柵の設置しかないが、柵の設置方法や設置場所、維持管理の方法を検討していくことが必要。
- ・ 植生保護柵を設置するだけではブナの実生は発生せず、ブナ林の更新にはギャップが必要。人為的にギャップを作り出すなど、更新方法を検討する必要がある。



現地検討会の様子（令和7年10月16日）



保護林管理委員会議事の様子（令和7年10月17日）

《配布資料》

【議事次第・出席者名簿】

【資料 1-1】 現地検討会資料（概要版）

【資料 1-2】 現地検討会資料

【資料 2】 令和 6 年度第 2 回保護林管理委員会等における意見概要と対応について

【資料 3】 令和 7 年度のスケジュールについて

【資料 4-1】 重点的対策実施 17 保護林における柵設置及び捕獲等の計画・実施状況等について

【資料 4-2】 重点的対策実施 17 保護林における植生保護柵設置状況一覧表

【資料 5-1】 管理方針書改訂のポイント

【資料 5-2】 令和 6 年度保護林モニタリング調査実施保護林に係る管理方針書について

【その他】 屋久島菌従属栄養植物等希少個体群保護林の面積変更について

【参考資料 1】 九州森林管理局保護林管理委員会運営要領

【参考資料 2】 保護林制度の改正について

【参考資料 3】 令和 6 年度第 2 回九州森林管理局保護林管理委員会議事概要

令和7年度 第1回九州森林管理局保護林管理委員会 出席者名簿

	氏名	所属・役職	
委員	片山 歩美	九州大学農学部 准教授 宮崎演習林 副林長	WEB
	勝木 俊雄	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 九州支所長	
	佐藤 美和子	株式会社佐藤木材 取締役	WEB
	鈴木 英治	鹿児島大学 国際島嶼教育研究センター 特任教授	
	千吉良 治	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター 九州育種場 育種課長	欠
	藤掛 一郎	宮崎大学農学部 教授	欠
	山川 博美	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 九州支所 森林生態系研究グループ 主任研究員	
	横山 隆一	公益財団法人 日本自然保護協会 参与 日本イヌワシ研究会副会長、奥利根自然センター代表	
九州森林管理局	眞城 英一	局長	
	池田 秀明	計画保全部長	
	山下 広	計画課長	
	濱本 敬士	〃 経営計画官	
	岡田 和也	〃 生態系保全係	
	飯星 明	保全課 野生鳥獣管理指導官	WEB
受託者	城戸 美智子	㈱九州自然環境研究所 主担当技術者	
	田中 英昭	〃 補助技術者	
	永野 春菜	〃 副担当技術者	

(委員50音順、敬称略)